

安保法制に反対 女性ら200人行進

富山「レッドアクション」

安倍政権が今国会で成立を目指す安全保障関連法案などに反対し、女性たちが、怒りや平和への情熱を表す「赤」を身につけて抗



「武力で平和は守れませぬ」などと声を合わせてデモ行進する女性たち
富山市新富町1丁目

議する「戦争をゆるさないレッドアクション」が31日、富山市新富町1丁目のCIC前広場で開かれた。県内の市民団体などで作る実行委員会が主催した。

赤色のTシャツ姿や傘などを手にした女性ら約200人が「許しません！戦争法案「こわすな！憲法9条」と書かれた赤い紙を掲げ、集団的自衛権の行使容認や、米軍普天間飛行場（沖縄県宜野湾市）の同名名護市辺野古への移設などに對し、抗議の声をあげた。集会後には「戦争させない」「みんなの力で平和をつくらう」などと声をそろえて市街地を行進。5歳の孫がいるという富山市の女性（74）は「戦争を知る人が少なくなり、不穏な雰囲気にな不安を感じる中で反対の意思表示をしようと思った。孫を戦争には行かせたくない」と話した。

井戸氏「司法変わる」

志賀原発訴訟 原告団総会で講演

北陸電力志賀原発運転差し止め訴訟の原告団総会が三十日、金沢市鞍月の石川県地場産業振興センターであり、元裁判官の井戸謙一弁護士（左）が講演した。井戸弁護士は「市民社会の考



講演する元裁判官の井戸謙一弁護士（左）30日、金沢市鞍月で



えを探るのが裁判官の役割。責任を自覚した判決を出させるべきだ。司法は変わる」と強調した。

井戸氏は金沢地裁で二〇〇六年三月、志賀原発2号機の運転差し止めを認める判決を言い渡した。現在は滋賀弁護士会に所属し、関西地方を中心とした脱原発訴訟に携わる。石川県内での講演は初めて。

講演では当時を振り返り、差し止めを認める理由となった北電の地震想定の不十分さを説明。〇七年に

起きた能登半島地震や、今月の原子力規制委の有識者会合で活断層の可能性を指摘された敷地内断層にも触れ「志賀原発は問題だらけだ」と批判した。

原発の新規制基準の問題点も指摘。原発再稼働に意欲を示す政府の方針に反し、全国各地で争われる原発訴訟の現状を示し「司法判断は拮抗している。流れが決まるのはこの一、二年だ。原発を止めさせるのは今しかない」と訴えた。

沖縄連帯集会

6月3日（水）18：15自治労会館

講師／琉球新報記者 中村 良太